

芦屋川カレッジ さんさん会会報

# さんさん会だより

撮影：安居院さん

熊彥座敷より松越しの渡月橋

Vol. 17月 令和7年12月

## Contents

01	世話人会報告 & 学友会からのお知らせ	05	第11回公開講演会
02	ボランティア活動報告	06~08	連載 「時を刻む」 第4回
03~04	イベント「京料理と トロッコ列車」	09~11	会員インタビュー
		12~19	同好会活動報告
		19	編集後記



令和7年11月20日 イベント「京料理とトロッコ列車」



# 世話人会報告

## 1. さんさん会の運営に関するこ

### ・配布体制の見直しについて

第82回(7/9)でブロック別配布リストの改訂が決定された。特に1、7ブロックは対象エリアが広く、配布責任者の負担が大きいため、最適な配布依頼者を確認して対応する方針が示されました。これにより公平な分担が図られました。

### ・その他の運営事項

第84回(10/10)で「さんさん歩」同好会の解散報告があった。また、第85回(11/12)で芦屋市シルバー人材センター会員募集の案内など地域情報の共有が行われました。

## 2. イベント・広報等に関するこ

### ・第12回イベント「京料理とトロッコ列車」

11月20日に実施する嵐山熊彦での京料理会食とトロッコ列車乗車を組み合わせたプランについて第82回から継続して議論され、詳細な行程表や班分け資料が整備されました。この企画は紅葉シーズンの混雑を考慮し、歩行距離の短縮やトイレ利用の徹底、足に不安のある方への別ルート案内など、細やかな配慮がされています。参加者は31名の予定。

### ・映画会

継続的に開催されており、第3回(7月)は「モリコーネ 映画が恋した音楽家」が上映され、好評を博した。第4回は「バーレスク」を12月22日に上映予定としました。

### ・公開講演会

第83回(9/10)で第11回公開講演会を10月29日に開催することとし、「英語・英文学を楽しむ」というテーマで北風文子氏が講師を務められました。参加者は部外者を含めて35名。質疑応答も活発で、アンケート結果も好評でした。

### ・新年会

令和8年の新年会は第82回から継続して議論され、1月22日にホテル竹園芦屋で開催することとしました。講談師・旭堂南鈴による講談鑑賞を含む内容で、会費は6,000円、出演料は事業費から充当されることが了承されました。

### ・「さんさん会だより」

Vol.16は7月に70部発行され、低成本ながら高評価を得ました。Vol.17は12月10日の世話人会の時に配布予定としました。



# 学友会からのお知らせ

前回報告以降の学友会行事は以下のとおりです。

- (1) 7/1からの市立芦屋病院ギャラリーに前田さん、北風さん、久我さんが出演しました。
- (2) 7/14に6年ぶりのサマー企画「元気会」が開催され、220名が参加。33期は13名。
- (3) 7/15からの「隧道展示」に前田さん、久我さんが出演しました。
- (4) 8/7には「夏休み子供教室」の第1弾として、前田さんの指導による「絵手紙を描いてみよう！」が開催されました。8/20には第2弾として、兵東代表が共同指導する理科教室「万華鏡を作ろう」が実施されました。
- (5) 8/27の「親睦団体戦」で33期チーム(小林章三さん、服部さん、山口克彦さん、山崎さん、長崎さん)が見事優勝を達

成しました。3連勝の個人賞は山口さん、山崎さんが受賞しました。

- (6) 9/8の講演会「木下大サーカス」に129名が参加し、うち33期からは10名が参加。
- (7) 10/6には「秋の音楽会」が開催され301名が参加。9チームが出演、33期から山川三郎さん、北風さんがフルート演奏で参加。
- (8) 11/6から11/10にかけて「美術展」が開催され、出展数は76点。33期から前田さん、北風さん、久我さんが出演しました。来場者数は延べ428人。アンケートによる人気投票もあり、来場者と交流を深めました。
- (9) 令和8年度は「学友会40周年」に当たります。記念パーティー、音楽会、講演会、記念誌の発行などを計画しています。



# ボランティア活動

## 芦屋病院ガーデンクラブ

今年の夏は昨年以上の酷暑となりましたが、ガーデンクラブはいつもと変わらず、市民病院を利用する方々にくつろぎの時間をもって貰うために花壇の整備を続けています。シーズン毎の花苗の植替えは定期的に行いますが、今回はそれ以外の私たちの活動を2点ほど紹介します。



### 1. 花と緑の専門家講習会

8月はさすがに屋外作業は大変なので、とある一日兵庫県の助成を受けて専門家を派遣してもらう講習



会を開催しました。今回は兵庫県園芸・公園協会の講師などをされている飯塚優子氏に来ていただき、「ガーデンデザインと管理」のタイトルで講演を受けました。当日はガーデンを計画する際の、チェックポイント、管理しやすい土壤、環境に合わせた花選び、色の組合せによるイメージの変化等々、順序だって説明を受けました。モダン

エックポイント、管理しやすい土壤、環境に合わせた花選び、色の組合せによるイメージの変化等々、順序だって説明を受けました。モダン



### 学友会 喜楽苑花壇植え替え

10月 18 日（土）『秋の植え替え』

参加者は全体で 28 名、33 期は兵東さん、松山さんの 2 名でした。いつもの担当範囲である



いろいろなガーデンの紹介も受けて、会員のガーデニングのセンスがどれほど向上したか？来年の成果に期待しましょう。

### 2. 西花壇のドウダンツツジ

西花壇は区画毎に管理責任者を決めて、基本的には会員がそれぞれの場所を管理しています。



このドウダンツツジコーナーは別名「松山花壇」とも呼びます。整備を始めた頃は雑草が生い茂っていましたが、徐々に整備を進め、今年はすっかりドウダンツツジコーナーと呼ぶにふさわしい景色になってきました。周囲の樹木の枝払いを進めて日当たりを良くしていますので、来年は更に美しく色づいてくれるものと期待しています。

現在さんさん会から 4 名（松山、稻垣、榎本、梅野各氏）が会員として参加していますが、パ



ートタイムの参加も可能です。剪定作業等で男性の参加も大歓迎。一緒に心地よい汗をかきましょう。参加される場合は、遠慮なく上記会員に連絡ください。（写真左から 3 人目：山田代表、右端の男性：松山の友人 森永さん）

電柱まわりを綺麗な花で囲うことができました。男だってできる。皆さんの参加をお願いします！





## 第12回イベント 京料理とトロッコ列車

11月20日、6ヶ月前に企画した「京料理とトロッコ列車の旅」がやっとやってきました。猛暑の影響による紅葉の色合いは? 当日の天候は? 熊彦の京料理は? 熊が嵐山に出没?・・・数々の心配事が頭によぎりながら、当日を迎えました。

昨日の小雨模様だった天気も晴れ日和、気温も上がり、後は参加者31名が無事嵐山に着くことができることを願いながら芦屋川駅を出発。梅田のホームで榎本さんと合流でき、全員が揃い一安心。心配していた階段の上り下りも問題なくクリア。全員着座して梅田駅を出発。大宮で乗り換えた嵐電は貸切り状態。

嵐山に予定時刻に無事到着。

嵐山はやはり、海外からの観光客で混雑していました。



熊彦の玄関先で早速集合写真撮影を終え2階会場へ。38畳の大広間から、渡月橋、紅葉した嵐山を眺めることができ、皆さんの写真撮影が始まりました。



塩路さんのキックオフ、兵東代表のご挨拶、梅野副代表の音頭で皆さん笑顔の乾杯!会食が始まりました。落ち着いた器に美しく盛り付けされた京料理は、どれも優しい美味しさでした。



また、上品な女将さんの気遣いをはじめ若いスタッフの皆さんの接客も素晴らしいものでした。



11時30分から始めた会食も、あっという間に終了予定時間の13時を迎えるました。女将さんのお見送りをうけながらトロッコ嵯峨駅に向かう。



駅までの距離930mが今日一番の難所と考えていましたが、皆さんの頑張りと班毎のチームワークで予定時間より早く駅に到着できました。



座席は、くじ引きで決定。日頃会わない人たちとの交流を深めることができました。



お造り



焚き合わせ



焼八寸



煮物椀



水物



兵東代表と三戸社長

集合写真を撮り終え駅構内に入ると、沢山の観光客で混雑していました。団体入口より2列に並んで列車の到着を待っていると、5分遅れで列車が到着。4号車の指定席に乗り込み着座。三戸社長さん以下スタッフのお見送りで出発しました。

トロッコ列車は、保津川渓谷を望む8.8kmの路線で8つのトンネルと51の橋脚があり明治32年に開通しました。断崖、川、山沿いに進む列車の旅は色鮮やかに染まった木々や山々、自然の美しさが手に取る様に感じられました。保津川下りを楽しんでいる船も見ることができ、23分間のダイナミックな列車の旅は終着駅のトロッコ亀岡駅に到着しました。

到着ホームは観光客で一杯。駅前に集合し、ここで解散となりました。色々と心配な点も多々ありましたが、美味しい京料理、紅葉の渓谷を巡るトロッコ列車。何よりも皆さんのチームワークの良さで懸念事項をすべて吹き飛ばしてくださり楽しい一日を過ごす事が出来ました。皆様、お疲れさまでした。

(企画係 倉原満治)



開業当初から関係者が植樹した桜や紅葉は大きく育って4,000本。

1月、2月は休業し、社員は枕木交換・車両のメンテナンスなど整備を行います。



トンネルや橋など18件が、国の登録有形文化財（建造物）になる見通し。11月21日に文部科学相に答申。

『保津峡』  
1606年角倉了以によって、物資を京へ運ぶため、激流を高瀬舟で運搬できるよう作り替えました。





# 第11回公開講演会「英語・英文学を楽しむ」

～言葉の魅力 (Charm) と魔力(Magical Powers)～

講師：北風文子

令和7年10月29日 203室 参加者35名

「いつの間に、こんな歳になったんだろう？」  
こんな考えが浮かんだ矢先に、講演会のご縁をいたたくことで、過ぎた日々を思い返す機会に恵まれ、おかげさまでテーマに沿った原稿を作る過程を十二分に楽しめました。

例えば、学生からもらった  
「先生、若い時モテたやろ。」  
の言葉に「えー！今もモてる  
けど。」とやり返して一緒に大笑いしたことや、このあと  
「先生、ほめたから、ちゃんと単位くれるよな！」と言わ  
れて絶句したこと等、すっか  
り忘れていたエピソードも思い出しました。

質疑応答でも盛り上がり、好意的な感想も多数頂戴し、とても楽しい講演会となりました。



自分の思いを伝える方法  
表情  
身振り手振り  
芸術一絵画・音楽・彫刻等  
言葉(読む、書く、聞く、話す)

まず、映画「My Left Foot」の一場面を見てもらい、“赤いバラ一輪の意味”を知っていると理解が深まるという説明をしました。

次に、言葉に内包する意味。例としてその単語の語源が分かると面白く、理解が進むこと。

また、文学を学ぶ喜びとして Jane Austen との出会いがあったことをお話ししました。



スライドの Pride and Prejudice(高慢と偏見) の所では、言葉の話からそれないように留意したため、説明を少し早く切り上げましたが、画面に映っている英文をゆっくりと読み、物語の解説もすれば、もっと楽しんでいただけたのではないかと反省しています。

「Pride and Prejudice (高慢と偏見)」の作者 Jane Austen (1775–1817) は、言葉(words)に対する感覚・感受性 (sense) が優れています。そこに私は強く惹かれました。

Pride and Prejudice の冒頭部分—

**It is a truth universally acknowledged, that a single man in possession of a good fortune, must be in want of a wife.**

(財産の沢山ある独身の男性なら、奥さんが欲しいと思っているに違いないということは、世界のどこででも認められる真理である。) 一は、私たちが、「つれづれなるままに 日暮らし…」とか「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、…」と言えば、「ああ、あれね」と通じ合えるのと同じレベルで人々に受け入れられているようです。

## Pride and Prejudice

18世紀末から19世紀初頭のイギリスを舞台に、ベネット家の5人姉妹の結婚を巡る物語。

Jane Austen は、現在も英国では、Shakespeare に次ぐ人気があり、クリスマスには代表作品が gift として選ばれ喜ばれている。



このように、今もギフト用に大事にされている物語であるということに驚きを禁じえません。

世界に誇れる『源氏物語』が、日本でクリスマスプレゼントになることがないのは残念です。

さいごに、もう一つの言葉の魅力と魔力について、佛教大学での自分史を披露する話や、教材についてお話をし、さらにアメリカのコネティカット州在住のパトリシアとの何気ない阪急芦屋川駅の出会いで、ふとした会話から始まった繋がりが、今もなお、交流が続いている話をしました。

最後に、私が今英語をどのように楽しんでいるかについて、例を四つ挙げて説明しました。

## Now

### かかわっている英語の学習

- 1) 「TIMEを読む」会
- 2) Miami Library: Great Books Discussion Group's Zoom Meeting
- 3) Silver 人材センター「楽しい放課後教室」
- 4) TV. watching: MLBで大谷翔平のplayを観て、アナウンサーの言葉遣いや様々な国籍の選手たちのインタビューを聴く etc.

尊敬する英文学の恩師から教わった「百事大吉」という言葉が好きで、いつも心に留めています。  
私の振る舞いや考え方の基になっています。



# 連載 旅を刻む 第4回 中欧編

## 前田 穢



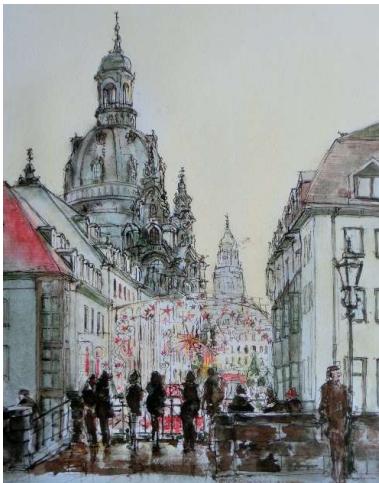
2017年12月、中欧ヨーロッパ（ドイツ、チェコ、オーストリア、スロバキア、ハンガリー）5ヶ国を巡るツアーに参加しました。

まず、ドイツのドレスデンは、第二次世界大戦時の空襲で、街は瓦礫の山と化しました。東ドイツに属していたため復興が進まず、東西統一後に大きく復興した街です。

その復興のシンボルであるフラウエン教会（聖母教会：写真）は、瓦礫を注意深く選別して本来の場所に用いる方法が採られ、瓦礫の中から不死鳥の如く甦り 2005 年に復旧しました。



マルテン・ルターの像の前で



クリスマスマーケットを望む

当時の水彩画（6号）



新たに描いた水彩画（10号）

雨上がりの夕景の中、荘厳な教会前のノイマルト広場で開催されているクリスマスマーケットの祝祭感と、それを少し高い処から見物している人々のシルエットが印象的に美しく心に残りました。

また、ドレスデン城の中央門館の城門を守る、現実の人間とはかけ離れた、あまりにも逞しい衛兵の彫像の姿に圧倒されました。その感動を、まずは写真に収めました。

それを、帰国後に、それぞれ 6 号の水彩画に仕上げました。

その 2 枚の絵は、2018 年、芦屋喜楽苑での作品展に出した際に、知り合いの方に購入して頂きました。しかし手放した絵に未練が残り、もう一度同じ題材で新たに 10 号の絵を描きました。これらの絵の方が大きさもそうですが、絵自身にインパクトがあると感じてもらえたでしょうか。



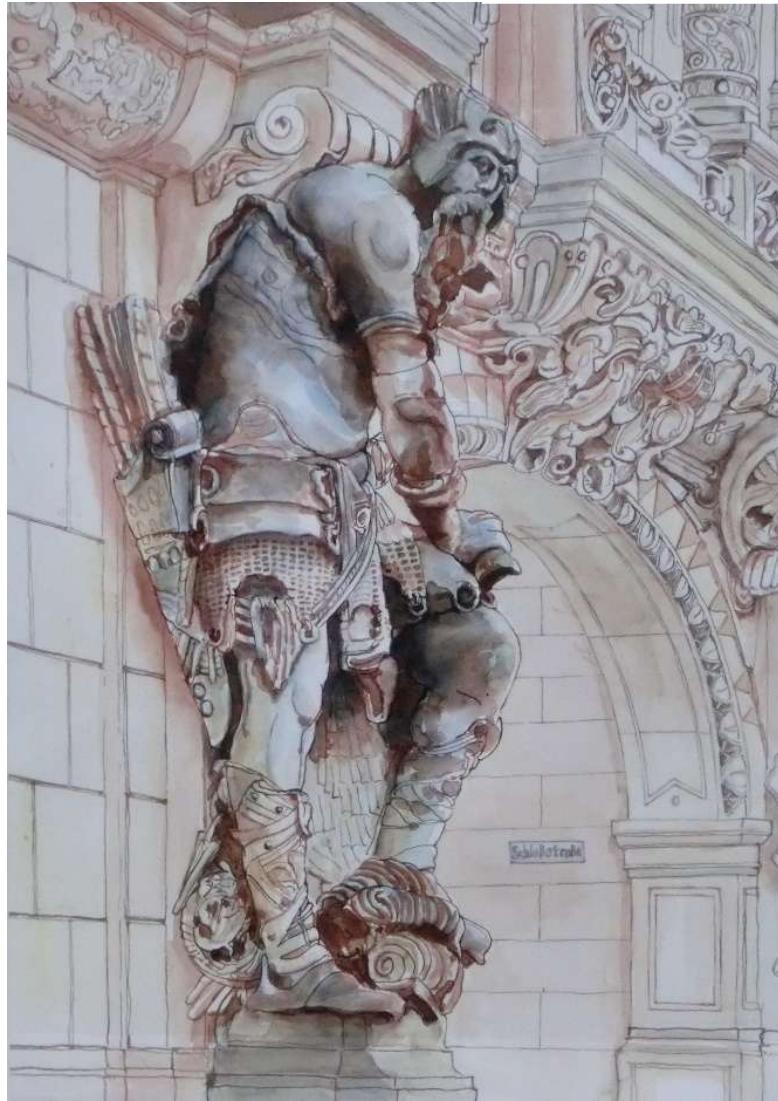
# 連載 旅を刻む 第4回 中欧編

## 前田 穢



ドレスデン城・ゲオルグ館の城門

当初の水彩画（6号）



新たに描いた水彩画（10号）



「プラハにて」・水彩画（4号）



「プラハの静寂」・水彩画（20号）



## 連載 旅を刻む 第4回 中欧編 前田 穢



次の日は、チェスキークルムロフ観光。

昔、橋のたもとに床屋があったことから名付けられた床屋橋では、一般的な観光客は、お城を目指すポイントなのでお城を見上げる構図が一般的な撮影スポットなのですが、私はそこで振り返って、チェスキークルムロフ城を背に、有名ではないですが、床屋橋から眺めた聖ヨシュト教会の素朴なたたずまいや色合いのやさしさが印象に残ったので、8号の水彩画にしました。

そこからオーストリアに入る。

丘陵地が雪で真っ白のハルシュタットの街並み（写真）はポスターにもよく使われています。



ハルシュタットにて

ウィーンに入った次の日、ハプスブルグ家の夏の離宮として建設された壮麗な宮殿、シェーンブルン宮殿を、そして、かつてサヴォイ家のオイゲン公の夏の離宮、現在は美術館となっているベルベデーレ宮殿を見学しました。

ウィーン市庁舎前のクリスマスマーケット（写真）を楽しんだ後、スロバキアの首都ブラチスラバへ。

旧市街地に出入りする「ミハエル門」（塔の下部が門になっている）を望む橋からの眺め。ブロンズの手摺り、欄干、ローマカトリック教会の聖人であり橋の守護聖人でもあるヤン・ネボムツキー像が一体となり、建物群と調和のとれた空間に魅力を感じ、6号の水彩画にしてみました。

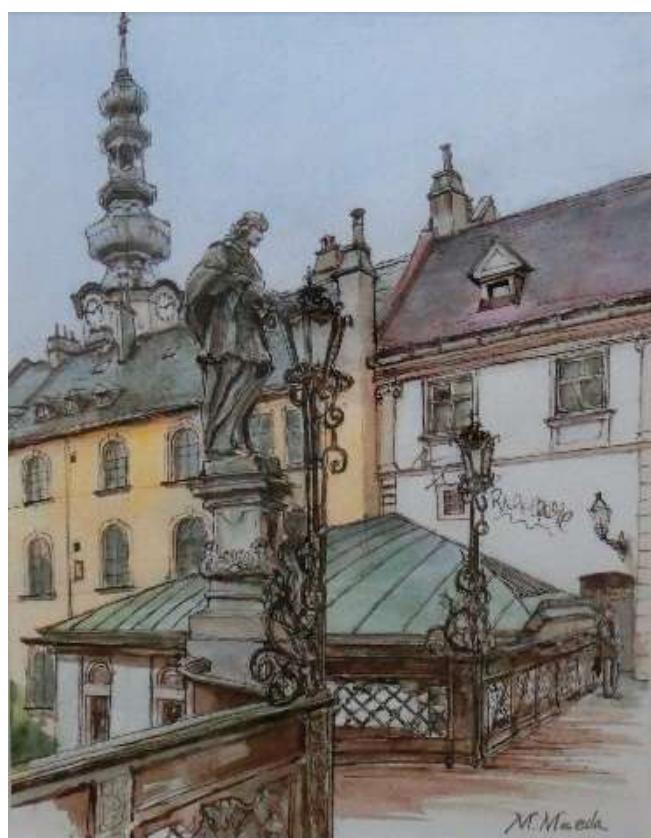
その後ハンガリーに入り、ブダペスト旧市街の見学の後、ドナウ川クルーズにて船上からブダペスト城の夜景を楽しみ、このツアーを締め括りました。



「チェスキークルムロフ」・水彩画（8号）



ウィーン市庁舎前のクリスマスマーケット



「ブラチスラバにて」・水彩画（6号）



# 会員インタビュー そこを知りたい



どうして、あれも・これもが出来るのだろう 北風文子さん

さんさん会の公開講演会で「英語・英文学を楽しむ」では楽しい話を聞かせて貰いました。

北風さんは、英語だけではなく、男の子4人を育てながら、勉学に励まれたこと。さらには、1日13時間も時を忘れて没頭するという究極の趣味である絵画制作。さらにフルート演奏。学友会やシルバー人材センターでも活躍なさっています。

そのエネルギーの源を知り、我々も新しいことに挑戦する参考にしましょう。



スフィンクスも観た！

Q:そもそも、絵画を始めたきっかけは？

A:大きな“きっかけ”ではなく、小学生のころから絵を描くことが好きでした。いつでもどこでも直ぐに描き始められます。昔、図工の授業で教わった知識と技能のみで、好きなように描いています。

高校から就職、結婚で絵から遠ざかり2017年春から自由に描ける環境になり2017年秋に、指導者のいない『絵画グループ』(50年の歴史がある)を選んで入会しました。

Q:描くこと自体の喜びで、夢中になれるのですね。

A:人前に出すつもりで描いたことはありません。2019年から、上野の森美術館主催の「日本の自然を描く展」には毎年作品を出品、評価と賞のある他の展覧会に出品したことはありません。

上野の森美術館の「日本の自然を描く展」は昭和63年発足以来、絵を描く喜びの輪を全国に広げようという主旨のもと、日本中の絵を描くことを職業としている人や趣味で描いている人を区別することなく、絵を描くことが好きで楽しいと思っている人たちがチャレンジし、発表できる場です。

そこで私は、人前に出すのが目的ではなく、自分の絵がどの程度の評価を得られるのか知りたくて、それを試してみようと考えて出品していますので、全く受賞を目指していません。

Q:自分の作品の客観的な評価だけを知りたいと。

A:私は、何に対してもそうですが、過程が好きなのです。描いている間の“夢中の状態”が心から楽しいのです。2024年に優秀賞を頂きました。その絵を取り込んだ表彰状が額付きで届いた時は。本当に驚きました。サプライズ。



「The Capitol of The United States of America」

Q:あくまでも趣味なのですね。楽しいところは？

また、絵によって、伝えたいことは？

A:思い出を再経験できることです。

例えばイタリアへ行って真実の口に手を実際に差し入れて、なんとも言えない恐怖と喜びを感じた瞬間をもう一度経験できます。

美しさ・喜び・暖かな雰囲気など、幸せを感じさせてくれるものを探しています。

「この絵を私の部屋にぜひ飾りたい、身近に置いておきたい。」と思ってもらえる絵を目指しています。

Q:楽しみを御裾分け。絵が完成したと感じる時は？

A:十分表現しきったと感じる瞬間はあります。その瞬間を察知する[感じる]のは、とても重要で、只々感覚で決め手はないし、一筆を書き加えたばかりに「ア~ア」ということになる危険が常にあります。

Q:画題について、様々に変化していますよね。

A:これまでのところ、「旅の思い出」→「花」→「人物、特に孫たち」・「風景」の順に、その都度、美・喜び・暖かな雰囲気で幸せを感じさせてくれるものを探こうとしています。

Q:かっこいい人物画について教えてください。

A: 何時も絵画グループの先輩にも言われます。  
「北風さんの絵はみんな宝塚のスターだ」と、自然に美男美女になってしまいます。

特徴を捉えて絵画らしく描けるようになるには  
まだまだ修行が必要です。

Q:講演会で見た「孫と息子夫婦」の絵について。

A: “幸せいっぱい”を描くことで私自身が幸せをいっぱいもらいました。今、ベッドのそばに作品を置いて毎日一緒に生活しています。



「入学式の日」

「瑠夏」スケッチと作品



Q:風景画についてモチーフはどう探すのですか。

A: 散歩・買い物・旅行などの時どきに、“これ、いつか描きたい！”と感じたら、写真を撮っておきます。描くのはすぐの時もありますが、気が向くまで何年もそのままのものもあります。ですから画材は常にスマホの中に詰まっています。

写真を使いますが、可能なかぎり何度も足を運んで実物を見ます。遠い昔の旅については無理ですが、芦屋川は色々な角度から何度も眺めました。

Q:芦屋川の絵はどれも空気感まで感じますが。

A: 芦屋川の初夏の絵は空が素敵でしょう。空は世界にそして宇宙に繋がっているし、広々と豊かな気持ちになるので描くのが楽しい。自分が幸せな気分になるから空気感が出るのだと思います。

Q:芦屋川ばかり描いているとマンネリに？

A: それはないです。

むしろ意識的に視点を変えます。秋の絵は、大慌てで描いたので不満足です。もう一度描きます。冬の芦屋川にもチャレンジします。

絵も、言葉が大事な役目を果たしています。  
描き始める前に“ここを紺色にして、この辺にこの樹を描いて…”等と構図を考えるのは言葉です。

Q:つぎに、シルバーでの活躍について。

A: ①具体的な活動内容は、(A) 仕事：「たのしい放課後教室」中学生に英語の指導・「PC研究会」一般市民向けパソコン・スマートフォン指導。(B) シルバー人材センターの運営に係る：副理事長として総務部会・理事会出席。外部の行事に参加・要請活動のため芦屋市長訪問。広報啓発委員会委員長として『はづらつ芦屋』の編集発行等。

- ・様々な考え方の人を穩便にまとめることが大変。
- ・人間模様での苦労は、常識が理解されないこと。

Q:最後に、フルートの演奏は？  
苦楽も合わせてお話ください。

A: 練習はシルバー人材センターの同好会でメンバーと月二回、練習は先生不在。さらに、西宮ガーデンズ文化センターの sound of gardens アンサンブルは、月二回練習、先生在。

本番は、カレッジ音楽祭・皐月コンサート（有志）・施設への慈善活動（不定期）等。

- ・楽は、上手になっていくことが楽しい。ようやく周りの人が吹く音色が聴ける（聞きながら自分のパートを吹く）ようになったこと。
- ・今、練習がめちゃくちゃ楽しい。花言葉は“憧れ”
- ・苦は、何年たっても、うまくならなかったこと。練習ができないで教室へ参加せざるを得ない時。



グレース・ケリー



全て、まことに自身が楽しむ、その結果として作品ができ、行動に繋がったりするので、いろんなことに対して、疲れ知らずに頑張れるのですね。

好奇心が旺盛で行動に移す力があり しかも行き当たりばったりでなく 計画性に富み(例:構図を決めた後に描き出す) 理智的に考えておられます。

好奇心と行動力、これが確実に前に進む活力となっているのですね。

そして、何よりも優しい人柄。声掛け一つにも気を配っておられることが、講演会で分かりました。

また、心と心の通じ合いを相手の顔や表情で読み取る感受性が、瑞々しいことに感動しました。

未だに、卒業記念誌『蘆火』を読み返しておられるなど、人に対する興味が尽きないのですね。

# 会員インタビュー そこを知りたい

公文式教育の指導者を引退、悠々自適の毎日 庄司典子さん

40年間という長きにわたり、芦屋・西宮の子供たちを導いてくださった庄司さん。自分の子供がお世話になったという方もおられると思います。今、さんさん会の会計係を担当され、また多くの同期会のメンバーで皆様と接点が沢山あります。公文と現在について語っていただきました。下の写真は、最後の授業で保護者のお母さまたちから頂戴した花束や贈り物の数々。局員さんもびっくりする数だったそう。



Q: やっと、ゆっくりしようという矢先に、とんでもない出来事が起ったのですね。

A: 令和7年6月末で40年間の公文式教育の指導者人生を終え、7月からはゆっくりとした生活にほっとしていた所、7月末に主人が我が家で倒れ救急車で運ばれました。幸い搬送先の笠生病院の先生方のおかげで、無事に後遺症もなく復帰できました。私が家に居て異変を感じ、救急車も呼べたので本当に良かったと思っています。

Q: それは大変なことでしたが、そばにおられてよかったです。そもそも公文式教育とは。

A: 公文式教育とは、1954年に公文公(くもん とおる)さんが我が子のために作った教材から始まった学習法です。現在では算数・数学、国語、英語の3教科を中心に、世界中で展開されています。

一人ひとりの学力に合わせた個人別学習と自学自習の重視です。教室で一斉授業を行うのではなく、各自が自分のペースで教材を進めていくスタイルが基本となっています。本部が教材を供給し、それを元にフランチャイズ形式の私共の教室が実際の教育を実施する形態を取っています。

Q: 公文学習教室を開かれたいきさつは?

A: 私は、東京で生まれ育ちました。大学の時に山歩きサークルで兵庫県出身の主人と出会い、卒業後すぐに結婚して関西にきました。専業主婦ではなく何か自ら打ち込める仕事をしたいと思っていた時、公文式教育に出会いました。ピアノ教室を開いていた姑の勧めもあり、教室運営に取り組むことになりました。

Q: ご苦労されたことは?

A: 当初は、忘れていた中高時代の数学の再勉強、ネイティブ英語のヒアリング等に一生懸命に取り組みました。

また教室運営は、フランチャイズティーで4割、それ以外に教室の賃貸料、私の場合は4~5人でしたが、採点・指導を手伝って頂くスタッフの入件費等も掛かり、決して楽

なビジネスというわけではありませんでした。

Q: そんな中で、思い出に残るエピソードは?

A: 2歳から通ってきて、灘中高から東大法学部を経て財務官僚になった生徒や、社会人になってから再び吉本興業の芸人を目指し挑戦した生徒、そして兄弟姉妹みんなで十数年も通ってくれファミリーの一員のようになれた生徒などなど、数多くの生徒達の忘れられない成長の思い出があり、私にとって一生の貴重な財産となっています。

Q: 素晴らしいですね。

その後の教室は?

A: 私の公文教室はその後、継続の必要性の判断から、公文事務局直営で教室スタッフも残して運営を続けています。

私自身も大分心身

共に疲れてきて

る中、生徒達の事も含めて心配していましたけれども、今は、安心して引退できて心から喜んでいます。

Q: 引退後にやりたいことは?

A: 私は、結婚して関西に来て、公文教室の運営をしておりましたので、東京の友達とも頻繁に交流できておりませんでした。先日は久方ぶりに小学校以来の親友達と会い、ともに食事をして昔話に花を咲かせました。また目黒の東山中学校の同期会の幹事になりましたので、60年来の付き合いを、ますます深めて行きたいと思っています。

双方の両親、兄弟を見送った現在、残り何年の人生かは分かりませんが、元気に楽しく過ごしていきたいなと思っています。芦屋川カレッジの活動も可能な限り、積極的に参画していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。



最後の授業で局員から頂いた花束



スタッフと子供たち



# 山歩会

リーダー：倉原満治

会員数：11名、特別会員5名

## 第55回高山植物園・比命大善神社

5月16日(木) 曇り 会員6名

世界の高山植物や寒冷地植物など1500種を野生に近い状態で育てるため、土・砂・石を使いそれぞれの植物に適するよう色々な工夫が施されていることに感心した。

比命大善神社に向かう。巨石がゴロゴロと見えてきた。  
想像以上に険しい仮設階段で急斜面を下る。巨石の間をくぐり抜け神社の本殿に到着。神社からさらに急斜面を下っていくと般若心教が刻まれた心教岩（高さ5.5m、幅6.5m）やウサギ型の神の盤座を見る事ができた。何とも言えないパワーを感じさせる不思議な場所であった。



## 第56回 矢田寺・松尾寺

6月19日(木) 猛暑 会員4名、特別会員1名



倒された、なんと矢田寺の開墾は西暦680年に遡り平安時代には地蔵菩薩が盛んになり、お地蔵様のご本尊になったということだ。松尾寺からの下りは実に5~6km約70分以上JR大和小泉駅まで、猛暑のアスファルト道路を夏の光をまともに受けながらの歩行には、さすがに全員疲れ果てた。



## 第57回 穂高湖・シェール槍

9月29日(月) 曇り 会員3名、特別会員4名  
森林植物園を目指し山田道を歩き始め濡れ道

を慎重に進む。  
60分を予定していたが83分掛けて森林植物園に到着。  
森林植物園は平日



のため客はまばら。

幸い木のテーブル・椅子を発見、ゆったりと昼食をとる。シェール槍（明治時代に神戸にいたドイツ人のシェールさんがよく登った山）を登る。急な斜面の岩場をよじ登ると山頂は360度のパノラマの絶景が楽しめた。



## 第58回 風吹岩・七兵衛山

10月17日(金) 晴れ 会員4名 特別会員2名  
久し振りのロックガーデン、こんなにきつかったかなと思いつつ、よじ登っていくと柿やアケビが実っていた。徐々に汗が噴き出し、足が思うように上がらない



くなる。突然1.5mぐらいのイノシシが目の前に現れビックリ！

メンバーの一人が下山途中、突然「膝が笑う」症状が出る。幸い整体師でもある森田さんのサポートを受けながら、皆と一緒に無事に下山できた。



2025年度は残り4回、11月：修法ヶ原、12月：有馬温泉、2月：中山観音梅林、3月：加西アルプスを予定している。





## ハコモノ巡り同好会

リーダー：梅野欽二 会員：18名

### 琵琶湖疎水記念館

10月28日(火) 参加11名

琵琶湖疎水史跡は今年5月に国宝・重要文化財の指定を受けましたので、この史跡（まだ現役ですが）の内容、歴史を学ぶために最初の訪問先としました。

当日は地下鉄東西線「蹴上駅」から出発し、まず琵琶湖から京都までの終端となる蹴上船溜り⇒疎水沿いの散策⇒南禅寺の水路閣⇒ねじりまんぼ⇒蹴上げインクライン⇒南禅寺船溜り⇒琵琶湖疎水記念館のルートで見学しました。

『琵琶湖疎水』の概要を簡単に紹介しますと、明治維新の「東京遷都」により大きく落ち込んだ京都を再生するために計画された一大プロジェクトで、明治18年から5年間の難工事の末に完成。設計から施工まで全て日本人が担った最初の大型土木工事で全て日本人が担った最初の大型土木工事で、工部大学校（現、東京大学）を出たての若い技術



者（田邊朔郎）を主任技術者に迎えるなど、当時の最新の技術や知識を投入し、その後の日本の土木工事の礎となりました。

琵琶湖から疎水を引くことで舟運、用水、水道水の供給等多くの目的に利用されました。一番大きな成果は日本最初の水力発電所（蹴上発電所）



の完成（明治24年）で、これにより日本初となる電気鉄道の営業など京都の産業振興に大きく貢献しました。

「哲学の道」などで目にする京都の疎水がこれほど京都の発展に貢献していることを今回初めて知りました。訪問先各処の詳細はホームページに紹介していますので興味のある方は見て下さい。

尚、当日の見学後は平安神宮前のレストランで賑やかな昼食を取った後、現地解散となりました。



## さんさんテニス

リーダー 福西 彰 会員：9名

テニスをすることの喜びって何だろう。  
相手があるので、どんな球が飛んでくるかわからない、それを打ち返すことが楽しいのだ。

我々の試合も近頃は、長く続く試合が多くなった。メンバーの技術レベルが向上したのだ。

なにしろ、テニススクールでストローク＆ボレーの練習をしても、ちっとも続かない。「相手が打ちやすいところへ返球しなさい」というのがコーチの指示である。でも、“当たりそこない”が多く、狙ったところへボールを運べないのが悲しい現実だ。つまり、仕留めるつもりの球でなく、”カスあたりが決め球になっているだけなのだ。

従って、長くラリーが続くことは、みんなのテニスのレベルが向上したことなのだ。



テニスのゲームは、毎回毎回、展開が変わるので、退屈ということがないし、バックにフォアのストロークにボレー、スマッシュと打ち分けないといけない。つまり奥が深いゲームなのだ。やること一杯！ まだまだ、全員で、頑張るぞ！



# さんさんヒストリア

リーダー：小林猛 会員：42名

7月23日(水) 座学 参加者 25名

- ①仏像相関図 A3画像資料とA3説明資料配布配布資料の説明
- ②NHK「にっぽん心の仏像100選」前編 上映  
仏像は、ガンダーラで生まれ、シルクロードを経て日本に渡りました。今回は、そうした日本の仏像を、日本人はどのような思いで、仏像を見ているのでしょうか。NHKでは、全国の視聴者の「仏像」に対する思いを、お便りにして送って頂いたなかから、100駆選んで番組にしました。前編は、主に人気の花形仏像にスポットが当たりました。

9月24日(水) 座学 参加者 18名

- ①NHK「にっぽん心の仏像100選」前編 上映
- ②NHK「にっぽん心の仏像100選」後編 上映  
「前編」は、7月に放映した、残存部分、「後編」は、一部放映しました。この番組は合計6時間になるので、一部割愛しましたが、それでも日本人は仏教というジャンルを超えて、とても仏像を愛していることが十分わかりました。その中で、番組内での『ベスト3』と思われる仏像を紹介します。  
やはり、決め手は、ご利益より、容姿が決め手ではないでしょうか。この国宝の三駆の仏像は容姿が端麗だけでなく、何か謎めいていますね！

- 国宝「弥勒菩薩半跏思惟像(宝冠弥勒)」広隆寺 610年頃 一木造(赤松)



- 国宝「菩薩半跏思惟像(如意輪觀音伝)」  
中宮寺 680年頃 寄木造(楠材)・彩色



- 国宝「八部衆立像 阿修羅」將軍万福作  
興福寺国宝館 734年 脱活乾漆造・彩色



10月22日(水) 座学 参加者 21名

- ① 仏像 シルクロード (PowerPointによる)  
日本には国宝の仏像だけでも120件以上、その総点数は300点以上あります。しかし、インドで生まれた仏教が、どのような道をたどって日本へ渡ってきたのか、そして仏像は？
  - (1) 仏像は、最初にギリシャの影響を受け、ガンダーラで制作されシルクロードで日本へ。
  - (2) 仏像は、如来部・菩薩部・明王部・天部・高僧/習合神の五つの姿に分かれる。
  - (3) 仏像の作り方の変遷と時代背景
  - (4) 仏像の印相
- 以上の(1)(2)(3)(4)はA4資料を11月に配布した。以下は、シルクロードを北から、東へと渡る仏像の変遷を紹介しました。
- (5) ガンダーラ仏、マトーラ仏
- (6) 敦煌・莫高窟、雲岡石窟、龍門石窟
- (7) バーミヤン大仏
- (8) 朝鮮半島の仏像
- ② NHK 興福寺 国宝誕生と復興の物語 前編  
「発見！天平の美」 放映



現在の興福寺は、721年藤原不比等追善のため、元明・元正天皇により北円堂が建立されたのが始まりです。その後、聖武天皇・光明皇后により次々と堂・塔が建立されました。しかし、その後10数回の火事により、初期の堂・塔及び仏像はそのほとんどが焼失しました。しかし、その度に焼失した形のままを再現し続け、現在に至っています。また、仏像は法隆寺と並んで、日本の国宝の仏像を数多く保存しています。



# ムジーク 33

リーダー 兵東 勇 会員: 30名  
♪第89回: 7月9日 15名

・山田和樹 ベルリンフィル デビュー

記念すべき初演! 佐渡裕以来の快挙。コンマスはノア、隣は町田琴和、隣は2ndVn首席のマーレネ伊藤、ノアの後ろには日本語を話せる圓・ベルクが座る。頼もしい日本人の楽団員が支える。  
1曲目: レスピーギ「ローマの噴水」  
2曲目: 武満徹の「ウォーター・ドリーミング」



メイン: サンニサーンス  
交響曲第3番「オルガン付き」初めて聞いたが、親しみやすい曲であった。山田の指揮は堂々としてとても素晴らしい。



同じ日本人として、誇らしいと感じた。  
デビューおめでとう、そして感動をありがとう!

・地球劇場 森山良子

今は亡き、谷村新司が司会の番組。二人のデュエットは、怪しい響きがあり、ゾクッとした。名曲ばかりの懐かしい曲に、さらに新曲も披露。とにかく歌唱力抜群!



♪第90回 8月6日 12名

・ミュージカル「ボニー&クライド」

分かりやすい筋書きに、素晴らしい音楽、場面展開のスムースさに感心した。ドラマはテンポよく進み休みなく展開していく。役柄に共感できる曲が付いているので、引き込まれてしまう。最後は観客全員立ち上がって拍手。会場の盛り上がりが凄い。映画でも見たことがあるが、アメリカのギャングが幅を利かせていた時代の雰囲気が伝わってきた。みんなが、ビリー・ザ・キッドに憧れたのだ。我々が時代劇を楽しむようなものだろう。



・Star Warsで楽しむ! パイプオルガン

私たちになじみの薄いパイプオルガンの解説演奏。なかなか臨場感は伝わらないが、包み込まれる感じを想像しながら聞いた。その響きは、広がりを感じさせ、魂を浄めるような作用を及ぼすように感じる。



♪第91回 9月10日 16名

・映画「シャイン」

実在の天才ピアニスト、ディビッド・ヘルフゴットの半生。父親の反対を押し切って留学。コンクールの大熱演の後、精神に異常を来たし倒れる。その精神状態から彼を救ったのはピアノの演奏だった。父親との確執は最後まで続く。しかし、周囲の人々の温かい愛情によって、再び音楽の世界に戻れた。音楽も素晴らしい感動が倍加する作品だった。彼は、今も生きて活躍中。彼の無邪気さから周囲に恵まれてピアノが生業になったことは本当に良かったと思えた。占星術で結婚を決めた奥さん、なんてユニークな人なのだ。じわじわ効果が効いてくる映画だ。

・あの素晴らしい愛をもう一度コンサート

この会は毎年開催されている。

懐しいフォークソングが聞けた。

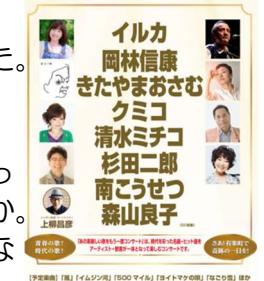
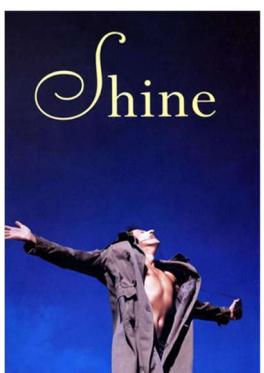
岡林など顔ぶれも懐かしい。

往年を思い出すことができた。

今思うと誰もが歌える曲があつたあの時代は、もう来ないのか。

共通に唄える唄の存在は貴重なものであったことに気付く。

でも、「よいとまけの唄」「山谷ブルース」など、暗い曲が多かったことにも、時代を感じた。



♪第92回 10月8日 15名

・ウィーンフィル

サマーコンサート

指揮トゥガン・ソフィエフ。

ウィーン少年合唱団初出演

清涼剤のような合唱すごい。

ハープの演奏が良かった。

テノールはピョートル・ベ

チャワ、得意のトン・ホセ

の唄や「誰も寝てはならぬ」

の迫力。「ウィーンに宜しく」

の説得力のある歌唱など、

感動の熱唱に聞き惚れた。

また、シェーンブルン宮殿に、

色彩豊富な照明演出が

施され、その美しさに吃驚。

また、馴染のある曲が多く、バランスのとれた選曲が良かった。

ノーカットで見たので、まるで

我々が宮殿に招かれて、鑑賞したかのような感動

に浸ることができ嬉しかった。

毎年、見ているがウィーンフィルは素晴らしい。



### ・夏、長崎から

さだまさしが戦後80年を節目に再開した。ゲスト陣が豪華だ。特に、河井勇人（ゆうじん）23歳のヴァイオリニストが凄かった。楽器もストラディバリウスだし、音色もよく一瞬で惹きつけられる演奏であった。さだまさしはこうして優秀な人材を発掘するのが好きなのだ。

また、いつもながら会場の盛り上がりが素敵。

さだまさしの曲は、いつ聞いても、古びることがない。いつも新鮮に聞こえる。これが名曲であることの条件。いつまでも歌って欲しい。



♪第93回 11月12日 12名  
葉加瀬太郎オーケストラコンサート



葉加瀬は「エトピリカ」や「情熱大陸」等は有名だが、もっと沢山作曲しているのだ。それらの作品を、豪華なオーケストラアレンジで聞いた。素晴らしい楽曲の盛り上がりを体験できた。大きな背景の中でも、葉加瀬のソロヴァイオリンの音色が際立って響く、卓越した演奏に魅了された。音色の豪華さを堪能。

5000人を収容する東京フォーラムのホールAでのコンサート、ノーカットで我々も会場にいるように、すべてを楽しむことができた。

### ・映画音楽の革命児ヘンリー・マンシーニ



世代を超えて愛されている音楽、すなわちスタンダードナンバーを作ったヘンリー・マンシーニ。特に、管楽器の使い方が素晴らしい。そのもとになる、ジャズバンドの編成で、そのサウンドを聞かせてもらった。

テナーサックスの奏でるムーンリバーには、心が震えた。音色が素晴らしい。

今回は、オーケストラとジャズ、それぞれの良さが実感できた貴重な体験だった。



## さんさんソング

リーダー：徳重光彦 会員：11名

今年の夏は猛烈な暑さの連続でしたが、短い秋を過ごしているといきなり平年並みの寒い冬の季節がやって参りました。

今期も9月、10月、11月と大好きなカラオケとおいしいワインやビール等を持込み、素晴らしいのど自慢大会を毎回無事に開催出来て良かったと思います。

さんさんソングの皆さんの持ち歌のレベルが上がり、自信にあふれて唄う姿は頗もしい限りです。マイクを通じて自分の喉を鍛え、頭の活性化をはかることは老化防止、健康維持にとても素晴らしいことだと思います。

これからもメンバーの皆様と一緒に新しい曲に是非チャレンジしていきたいと思います。



♪ 9月19日（金）

13時半～

ジャンカラ阪神西宮

参加者(7名)：吉野、小林、倉原、筑摩、天王寺谷、仲井、森（ゲスト）



♪ 10月21日（火）

13時半～

ジャンカラ阪神西宮

参加者(7名)：吉野、小林、倉原、筑摩、三村、天王寺谷、徳重



♪ 11月21日（金）

13時半～

ジャンカラ阪神西宮

参加者(9名)：吉野、小林、後藤、倉原、筑摩、三村、久我、天王寺谷、徳重





# 33 アートの会

リーダー 安居院憲彰

7/16 ルノアール特集

・これでわかる ルノアール

歴史と作品群の説明。

・映画「ルノワール

陽だまりの裸婦」

父と息子ジャンのミューズになるデデというモデルが凄い。

画面の美しさは絵画のように素晴らしい。

デデも惜しげもなく裸をさらけ出し、ルノワールは、まさに生きた肌を描き切ったのだ。健康な肌のミューズの出現に画家として非常に満足した。

リューマチで手伝いが必要なルノアールの使用人やモデルの役割や苦労がよく理解できた。

ルノアール自身の言葉も引用されていて、絵画に挑む巨匠の実像が明らかになった。

## ・可愛いイレーヌ

ユダヤ財閥令嬢。結婚相手もユダヤ人。子供二人を残して再婚し、カトリックに改宗しナチスの追及を免れる。

夫の遺産で晩年は遊蕩三昧。ナチスから戻ったこの絵も惜しげもなく売り払ってしまう。

## ・人生の転機の絵

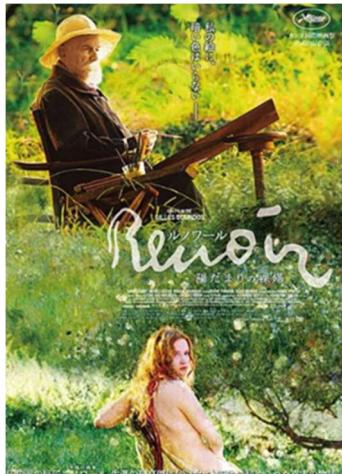
出版会社の社長令嬢シャルパンティエ嬢を描いた作品。

ここから、人物表現に筆触分割を使わなくなる。そのため肖像画が売れるようになる。

生きた肌が書けるようになり裸婦像の制作に向かう転機となった。

会員：31名

15名



## 8/20 鑑賞会 ゴッホ展

@大阪市立美術館

ゴッホがこれほど有名になった陰には、家族の頑張りがあった。

弟テオ、その妻ヨー（手紙を整理、作品管理）、

甥のフィンセント・ウィレムが活躍し、今のゴッホ美術館に繋がる。家族を知る絶好の機会。

展示されていた浮世絵群の展示も秀逸であった。



## 9/27 ゴッホ特集 安藤忠雄対談集 16名

・印象派とゴッホ～画家を支えた画商と家族～400点もの大展覧会を開いたヨーの企画力凄い。夫のテオがゴッホに仕送りをしていたことを知りながら、認めていたことは、ゴッホの絵のすごさに早くから気付いていたのだ。そして死後、ゴッホの名を有名にする仕事を着々と進めた才女。

## ・ゴッホ 新たなる“発見”の旅

新たな自画像が「オスロー美術館」で見つかった。

知られざる真贋鑑定を見た。贋作ということでは、大原美術館の《アルピーユの道》オットーヴァッカーの贋作であることは、有名な事実である。

## ・安藤忠雄対談

山中伸弥や原田マハとの対談を取り上げた。

山中伸弥の話では、共通の友人である平尾誠二が震災の時に、ラグビー部の宿泊所の近くの民家から助け出した娘さんが、平尾が死んでから新聞にお札の言葉を掲載された。どうして生きておられるうちにお札を言いに行かなかったのだろう。人生はそんなものだ。思い通りにはならない。原田マハの話では、文化の大切さを伝えていきたい。心震わせるものを残していくことが大事だと。我々も、本物の人たちの話を聞いて精進したい。

## 10/15 発明 天正遣欧使節 林忠正 13名

### ・世界を変えた発明5

ポンプ、保存食品、時計、ネジ、活版印刷

こうやって並べてみると、人間ってすごいものを作ってきたのだと、改めて感心することが多い。

### ・世界を見た若者たち一天正遣欧少年使節を迎えるヨーロッパの旅一

十代の若者が、欧州に放り出された。カルチャーショックの度合いや心境を読み取る内容で見応えがあった。

それはまさにヤマザキマリが体験したこと繋がる。異文化の中でもがいた経験は貴重なものだ。タイパやコスパばかり気にする現代の若者に、自分の身で体験することこそが、大切なことだと力説された。正にその通りと思う。

遠い国からきた使節団は、スペインで貴族の館に泊まらせてもらい、病気の看病もして貰ったのだ。夜会にも参加し歓待された。それが人々の記録や記憶にも残っていることが、また凄いことである。



・不屈の美術商 林忠正  
ヤマザキマリの思いは、  
林は自分と重なるとの事。  
西洋人と日本人狹間を体  
験している人ならではの  
意見は、傾聴すべき。

“国賊”と呼ばれて



“国賊”と呼ばれたのは、パリで大儲けをし、や  
っかみがあったのだろう。日本の芸術を西洋にし  
っかりと紹介した功績はとても大きい、偉人だ。

## 11/19 大ゴッホ展紹介 葛飾応為 12名

・ゴッホの名作に会いに行く

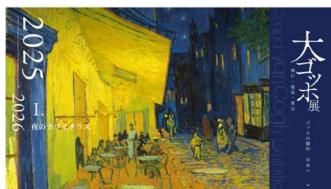
「夜のカフェテラス」

そこに秘められた意味。

夜空の青と黄色の灯り

に聖と俗を表現、我々  
を導く夜空の星と欲望  
のたまり場であるカフ  
エを対比していること。補色の関係にある青  
と黄色でそれを強烈に表現しているのだ。

また、カフェのお客は、キリストと12人の使徒  
であるという説明にも吃驚。深い意味があった。  
単なる風景画ではなかったのだ。深い精神性が込  
められた作品だったのだ。12月17日に神戸市  
立博物館に見に行くのが、とても楽しみになった。



・映画「百日紅」さるすべり

葛飾応為つまり北斎  
の娘お栄さんを描いた作品。

当時の江戸を実感できる映像に感動した。

また浮世絵や江戸の  
風俗、親子と男女と言った題材を現代でも理解できるように仕立てられ、共感を呼ぶ秀作映画だった。薄っぺらな漫画風ではなく、力のこもった作品に仕上がっていることに感動した。

・NHK ヒストリア「女は赤で輝く」

信州の岩松院にある巨大天井絵「八方睨み鳳凰図」のすばらしさを満喫した。

まだ、色が鮮やか。

こちらに迫ってくる  
ような大迫力の鳳凰。  
これを晩年の北斎と  
二人で描いたのだ。  
何という仲の良い父  
娘なのだろう。



## さんさんキッチン

リーダー 三村邦子

会員数：10名

旬の食材を使い、2ヶ月に1回のペースで  
調理と会話を楽しんでいます。

### 24回 『盛りだくさんの 中華料理』

9月26日(金) 13:00～17:00

女性6名、男性3名 計9名

「サーモンのサラダ巻」と「ジャージャン麺」は、  
山崎さんから。栗原はるみ仕込みの「油淋鶏」は、  
山川さんから、  
それぞれレクチャーを受けました。

「サーモンの  
サラダ巻」

盛り付けが肝心。可愛くニラでくくり、きれいに  
ソースをかける。



「油淋鶏の揚げ方」

唐揚げのサクサクの衣に、たっぷりのねぎと甘酸  
っぱいソースが良く合います。鶏肉は1枚のまま揚げる方がボリュームも出て、切ったときに肉

汁がジュワッとあふれ、おいしく感じます。

沢山の料理が出来上  
がり美味しいいただきました。

料理の指導をいた  
だきました山崎さん、山川  
さんお疲れさまでした。



次回の予定は、12月5日（金）、内容は  
「材料豊富なおでんを囲んで」というテーマで  
進めることにいたしました。



# 絵手紙さんさん

リーダー：前田 穂 会員数：5名  
活動：毎月第2木曜日 9:20～12:00  
会場：リードあしや  
メンバー：稻垣憲子・久我三和子・下中智子・

堀京子・前田穂  
メンバーが5名と少人数ですが、毎月おしゃべりしながら絵手紙を楽しんでいます。  
新しいメンバーが増えると良いのですが。



新メンバー募集中！  
一緒に、絵手紙を  
楽しんでみませんか



## 編集後記

「講演会」や「京料理にトロッコ列車」のイベントなど盛りだくさんの行事があり、興味深い話題で満載になりました。

新企画の会員インタビュー今回は公文後の庄司さんと多方面で活躍の北風さんのお二人からそれぞれ興味のある話が沢山聞けました。

「旅を刻む」は美しい中央ヨーロッパの話題に素晴らしい絵画作品と写真が、見て楽しい上に、各地で何に興味を惹かれて絵画制作さ

れたか、その動機を知ることができます。また、最初の作品が売れ、もう一度制作された作品群を、2つ並べて載せて頂きました。同好会報告もそれぞれ楽しい話題で一杯。本号は味覚の秋と紅葉の色でまとめました。皆さま、ごゆっくりとお楽しみください。

右のQRコードにて、「さんさん会」のホームページをご覧ください

